

作物統計調査 令和3年産水稲の作付面積及び予想収穫量 (9月25日現在) (東北)

— 主食用作付見込面積は32万2,400ha、10a当たり予想収量は581kgの見込み —

【調査結果の概要】

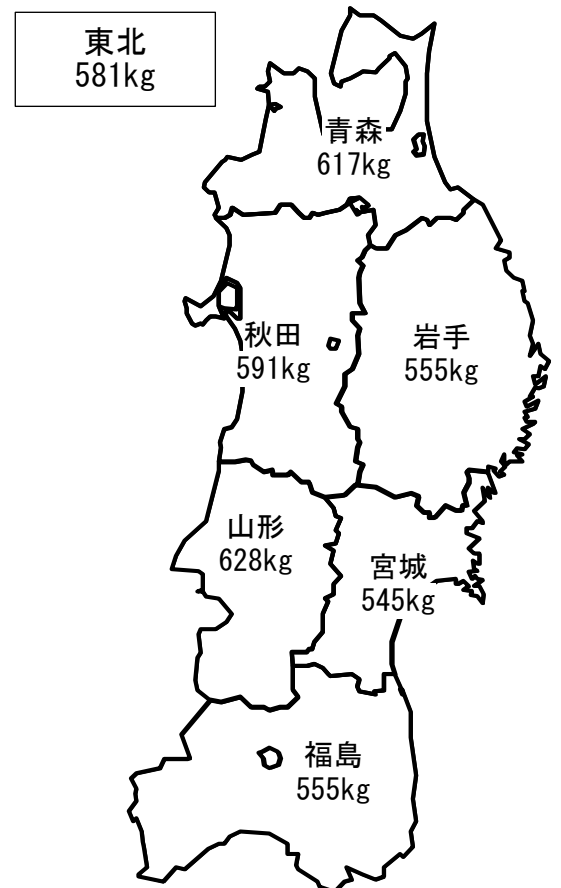
1 令和3年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は40万9,900haで、前年産に比べ1,700haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は32万2,400haで、前年産に比べ1万9,600haの減少が見込まれる。

2 9月25日現在における水稲の作柄は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年以上に確保され、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）もおおむね順調に推移しているとみられることから、10a当たり予想収量は581kgが見込まれる。

また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は102の「やや良」が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は187万tで、前年産に比べ13万tの減少が見込まれる。

図1 県別10a当たり予想収量
(9月25日現在)



- 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積（9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 本調査（9月25日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、東北農政局ホームページの「公表予定及び公表結果」で御覧いただけます。

東北農政局ホームページ>統計情報>公表予定及び公表結果

【 <https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/> 】



【調査結果】

1 令和3年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は40万9,900haで、前年産に比べ1,700haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は32万2,400haで、前年産に比べ1万9,600haの減少が見込まれる。

2 9月25日現在における水稻の県別の10a当たり予想収量は、田植期以降の気温がおおむね平年を上回って経過したこと等により、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年以上に確保され、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）もおおむね順調に推移しているとみられることから、青森県は617kg、岩手県は555kg、宮城県は545kg、秋田県は591kg、山形県は628kg、福島県は555kgが見込まれる。

この結果、東北の10a当たり予想収量は581kgが見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は187万tで、前年産に比べ13万tの減少が見込まれる。

表 令和3年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量
及び予想収穫量（9月25日現在）

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量		主食用作付見込面積 ③	予想収穫量 （主食用） ④=②×③
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対 差		
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t
東 北	409,900	△ 1,700	100	581	△ 5	322,400	1,870,000
青 森	50,100	△ 200	100	617	△ 11	34,200	211,000
岩 手	55,100	△ 600	99	555	2	46,200	256,400
宮 城	74,900	△ 400	99	545	△ 7	61,000	332,500
秋 田	89,800	△ 500	99	591	△ 11	71,400	422,000
山 形	68,500	△ 300	100	628	6	54,900	344,800
福 島	71,600	400	101	555	△ 7	54,700	303,600

注：1 東北の①作付面積（青刈り面積含む。）実数及び③主食用作付見込面積は、県ごとの積上げ値と一致しない場合がある。

2 ②10a当たり予想収量及び④予想収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

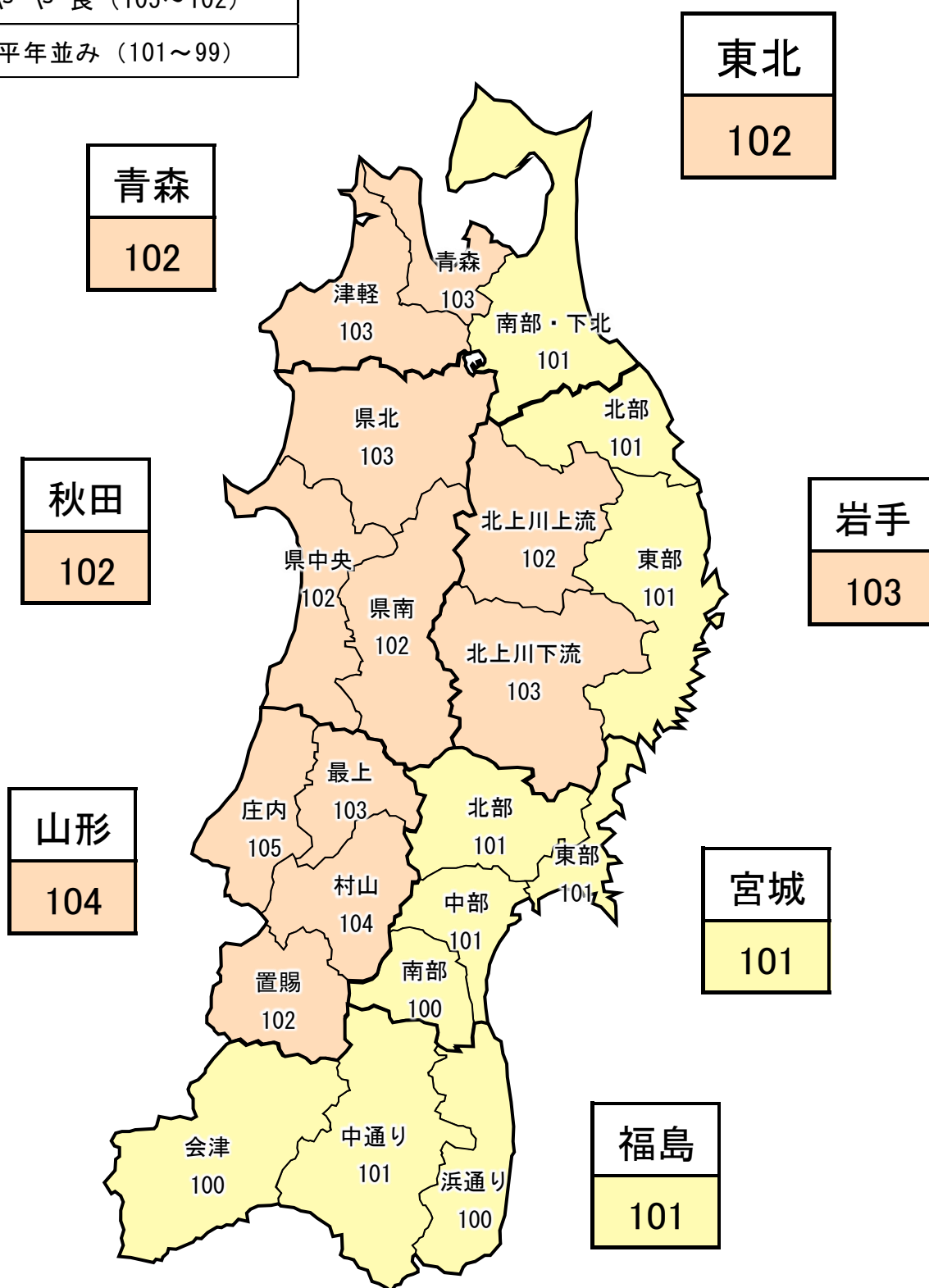
3 ③主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積（9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。

4 東北の④予想収穫量（主食用）は、県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算値と一致しない場合がある。

5 「△」は、減少を示している。

図2 県・作柄表示地帯別作況指数（9月25日現在）

区分	作柄の良否（作況指数）
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）



注： 作況指数は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 令和3年産水稻の作付面積、10 a 当たり予想収量及び予想収穫量
(9月25日現在) 6
- 2 令和3年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合(9月25日現在) 8

累年データ

- 1 水稻の年次別推移(東北) 9
- 2 水稻の年次別推移(青森) 10
- 3 水稻の年次別推移(岩手) 10
- 4 水稻の年次別推移(宮城) 11
- 5 水稻の年次別推移(秋田) 11
- 6 水稻の年次別推移(山形) 12
- 7 水稻の年次別推移(福島) 12

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)		3桁	2桁		1桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前(原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値(統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
 - 「0」：単位に満たない又は増減がないもの
 - 「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
 - 「…」：未発表のもの
 - 「△」：負数又は減少したもの
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和3年産水稻の作付面積及び予想収穫量(9月25日現在)(東北)」(東北農政局)による旨を記載してください。

1 令和3年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び予想収穫量（9月25日現在）

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量	農家等が使用しているふるい目幅で選別			
	実 数	前年産との比較			最も多い 使用割合 の 目 幅	10a 当たり 予想収量	10a 当たり 平年収量	作況指数
		①	対 差					
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
東 北 (1)	409,900	△ 1,700	100	581	…	552	540	102
青 森 (2)	50,100	△ 200	100	617	1.90	588	574	102
青 森 (3)	5,750	0	100	608	…	578	559	103
津 軽 (4)	29,800	△ 100	100	640	…	610	594	103
南部・下北 (5)	14,500	△ 200	99	567	…	541	535	101
岩 手 (6)	55,100	△ 600	99	555	1.90	528	514	103
北上川上流 (7)	13,800	△ 100	99	573	…	540	529	102
北上川下流 (8)	37,100	△ 600	98	553	…	530	514	103
東 部 (9)	1,240	△ 50	96	493	…	466	462	101
北 部 (10)	2,870	10	100	507	…	475	469	101
宮 城 (11)	74,900	△ 400	99	545	1.90	518	514	101
南 部 (12)	7,510	90	101	519	…	486	485	100
中 部 (13)	13,800	△ 100	99	531	…	499	494	101
北 部 (14)	45,000	△ 300	99	555	…	531	525	101
東 部 (15)	8,620	△ 20	100	549	…	524	518	101
秋 田 (16)	89,800	△ 500	99	591	1.90	556	543	102
県 北 (17)	19,800	0	100	577	…	543	526	103
県 中 央 (18)	31,600	△ 300	99	592	…	551	539	102
県 南 (19)	38,400	△ 200	99	599	…	567	554	102
山 形 (20)	68,500	△ 300	100	628	1.90	592	568	104
村 山 (21)	15,000	△ 100	99	645	…	605	580	104
最 上 (22)	10,500	△ 100	99	595	…	564	548	103
置 賜 (23)	14,000	△ 100	99	622	…	587	574	102
庄 内 (24)	29,100	100	100	634	…	598	567	105
福 島 (25)	71,600	400	101	555	1.85	536	533	101
中 通 り (26)	37,500	0	100	537	…	519	515	101
浜 通 り (27)	11,300	500	105	520	…	500	499	100
会 津 (28)	22,800	△ 100	100	595	…	576	574	100

注：1 東北の①作付面積（青刈り面積含む。）実数及び⑦主食用作付見込面積は、県ごとの積上げ値と一致しない場合がある。
 2 ②10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 ④10a 当たり予想収量、⑤10a 当たり平年収量及び⑥作況指数は、県ごとに、過去5か年間（平成27年産～令和元年産）に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、③最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 4 ⑦主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積（9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。

主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)	作柄概況 (平年比較)				
		穂数の 多 少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の 良 否	
⑦	⑧=②×⑦					
ha	t					
322,400	1,870,000	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	(1)
34,200	211,000	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	(2)
…	…	多	少	平年並み	やや良	(3)
…	…	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	(4)
…	…	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(5)
46,200	256,400	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(6)
…	…	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	(7)
…	…	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(8)
…	…	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	(9)
…	…	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	(10)
61,000	332,500	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	(11)
…	…	やや少ない	多	やや多い	やや不良	(12)
…	…	やや少ない	多	やや多い	やや不良	(13)
…	…	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み	(14)
…	…	やや少ない	多	やや多い	平年並み	(15)
71,400	422,000	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み	(16)
…	…	多	平年並み	やや多い	平年並み	(17)
…	…	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	(18)
…	…	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	(19)
54,900	344,800	やや多い	平年並み	やや多い	やや良	(20)
…	…	やや多い	平年並み	やや多い	やや良	(21)
…	…	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	(22)
…	…	やや多い	平年並み	やや多い	やや良	(23)
…	…	多	平年並み	多	平年並み	(24)
54,700	303,600	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(25)
…	…	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(26)
…	…	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	(27)
…	…	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	(28)

5 作柄表示地帯別の⑦主食用作付見込面積及び⑧予想収穫量(主食用)は、新規需要米(飼料用米を含む)、備蓄米、加工用米等の作付面積(9月15日現在)を把握していないことから「…」で示した。

6 東北の⑧予想収穫量(主食用)は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算値と一致しない場合がある。

7 作柄概況(平年比較)に用いた表示区分は、「多い(良)」が106%以上、「やや多い(やや良)」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや少ない(やや不良)」が98~95%、「少ない(不良)」が94%以下に相当する。

2 令和3年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月25日現在）

区 分	出 穂 期								刈取済面積 割 合
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		対前年差			
				対平年差	対前年差				
月 日	月 日	月 日	対平年差	対前年差			%		
東 北	7. 28	8. 2	8. 9	3日早	4日早		30		
青 森	7. 27	7. 30	8. 4	6日早	6日早		34		
青 森	7. 29	7. 31	8. 4	6日早	5日早		32		
津 軽	7. 26	7. 29	8. 3	7日早	6日早		42		
南部・下北	7. 27	7. 30	8. 5	7日早	7日早		25		
岩 手	7. 28	7. 31	8. 5	5日早	6日早		28		
北上川上流	7. 27	7. 31	8. 5	6日早	6日早		12		
北上川下流	7. 28	7. 31	8. 5	5日早	6日早		35		
東 部	7. 27	7. 31	8. 6	7日早	7日早		22		
北 部	7. 28	7. 31	8. 5	7日早	6日早		10		
宮 城	7. 26	7. 30	8. 7	4日早	7日早		28		
南 部	7. 26	7. 30	8. 8	2日早	7日早		31		
中 部	7. 25	7. 30	8. 5	4日早	7日早		27		
北 部	7. 25	7. 29	8. 6	4日早	7日早		26		
東 部	7. 25	7. 30	8. 7	4日早	6日早		37		
秋 田	7. 25	7. 31	8. 5	4日早	3日早		46		
県 北	7. 25	7. 31	8. 5	4日早	3日早		45		
県 中 央	7. 24	7. 31	8. 5	3日早	2日早		50		
県 南	7. 25	7. 31	8. 5	4日早	3日早		43		
山 形	7. 29	8. 2	8. 12	4日早	4日早		37		
村 山	7. 31	8. 2	8. 12	4日早	4日早		31		
最 上	7. 26	8. 3	8. 13	4日早	5日早		35		
置 賜	7. 30	8. 3	8. 13	3日早	4日早		21		
庄 内	7. 28	8. 1	8. 9	3日早	3日早		47		
福 島	8. 1	8. 7	8. 15	2日早	2日早		4		
中 通 り	8. 1	8. 6	8. 15	2日早	3日早		2		
浜 通 り	7. 29	8. 4	8. 13	3日早	5日早		14		
会 津	7. 31	8. 7	8. 14	2日早	2日早		3		

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

1 水稲の年次別推移（東北）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	440,700	437,900	561	2,456,000	…	…	102
14	437,400	435,200	557	2,424,000	…	…	101
15	430,300	428,700	444	1,903,000	…	…	80
16	441,000	439,700	546	2,399,000	…	…	98
17	444,000	442,900	563	2,495,000	…	…	101
18	441,100	439,800	549	2,414,000	…	…	99
19	435,800	433,800	560	2,431,000	…	…	101
20	419,400	416,000	571	2,374,000	406,800	2,320,000	102
21	421,100	416,700	557	2,322,000	405,900	2,262,000	100
22	428,300	419,300	558	2,339,000	400,600	2,236,000	100
23	406,200	389,000	565	2,199,000	370,900	2,096,000	101
24	413,800	396,700	577	2,288,000	374,500	2,159,000	103
25	419,000	406,200	573	2,328,000	376,000	2,153,000	103
26	419,200	402,500	585	2,354,000	361,100	2,109,000	105
27	415,200	381,300	579	2,209,000	339,500	1,964,000	103
28	414,000	375,900	576	2,165,000	333,700	1,917,000	103
29	412,500	374,800	564	2,115,000	334,300	1,882,000	99
30	412,500	379,100	564	2,137,000	345,500	1,947,000	99
令和元	412,500	382,000	586	2,239,000	344,600	2,015,000	104
2	411,600	381,500	586	2,236,000	342,000	2,000,000	104
3 (見込み)	409,900	..	581	..	322,400	1,870,000	102

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下7まで同じ。）

注：1 作付面積のうち子実用とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下7まで同じ。）。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下7まで同じ。）。

3 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた面積である（以下7まで同じ。）。

4 作況指数は、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東北は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下7まで同じ。）。

2 水稻の年次別推移（青森）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	54,400	53,400	575	307,100	…	…	99
14	53,700	52,600	568	298,800	…	…	98
15	52,200	52,100	308	160,500	…	…	53
16	53,700	53,600	588	315,200	…	…	101
17	53,900	53,800	600	322,800	…	…	103
18	53,400	53,300	581	309,700	…	…	100
19	52,200	52,200	573	299,100	…	…	99
20	49,400	49,200	611	300,600	47,700	291,400	105
21	49,300	49,100	584	286,700	47,600	278,000	101
22	50,400	49,400	578	285,500	47,100	272,200	100
23	50,700	46,900	598	280,500	45,500	272,100	103
24	51,000	47,800	619	295,900	45,200	279,800	106
25	51,600	49,600	610	302,600	44,600	272,100	104
26	51,900	48,600	610	296,500	42,200	257,400	104
27	51,400	43,500	616	268,000	37,300	229,800	105
28	50,700	42,600	604	257,300	36,800	222,300	104
29	50,500	43,400	596	258,700	38,000	226,500	101
30	50,300	44,200	596	263,400	39,600	236,000	101
令和元	50,400	45,000	627	282,200	39,200	245,800	106
2	50,300	45,200	628	283,900	38,300	240,500	105
3 (見込み)	50,100	..	617	..	34,200	211,000	102

3 水稻の年次別推移（岩手）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	61,000	60,800	528	321,000	…	…	101
14	60,200	60,100	528	317,300	…	…	100
15	58,800	58,600	387	226,800	…	…	73
16	60,500	60,400	543	328,000	…	…	102
17	60,700	60,600	538	326,000	…	…	101
18	60,100	60,000	520	312,000	…	…	98
19	58,700	58,500	529	309,500	…	…	99
20	57,000	56,600	538	304,500	55,100	296,400	101
21	56,900	56,400	534	301,200	55,000	293,700	100
22	57,600	56,400	554	312,500	54,800	303,600	104
23	57,000	54,500	546	297,600	52,200	285,000	102
24	57,500	54,600	559	305,200	52,400	292,900	105
25	57,900	55,400	542	300,300	53,100	287,800	102
26	58,000	55,000	562	309,100	51,200	287,700	105
27	57,000	51,400	560	287,800	48,100	269,400	105
28	56,600	50,300	540	271,600	47,100	254,300	102
29	56,100	49,800	533	265,400	47,000	250,500	98
30	55,900	50,300	543	273,100	48,800	265,000	101
令和元	55,900	50,500	554	279,800	48,300	267,600	103
2	55,700	50,400	553	278,700	48,200	266,500	103
3 (見込み)	55,100	..	555	..	46,200	256,400	103

4 水稻の年次別推移（宮城）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	80,700	79,900	536	428,300	…	…	103
14	79,600	79,400	538	427,200	…	…	103
15	78,600	78,300	359	281,100	…	…	69
16	79,500	79,200	565	447,500	…	…	108
17	79,700	79,500	533	423,700	…	…	101
18	78,600	78,300	510	399,300	…	…	96
19	77,300	76,700	532	408,000	…	…	100
20	73,400	72,400	522	377,900	70,800	369,600	98
21	74,500	73,300	529	387,800	72,100	381,400	100
22	76,100	73,400	545	400,000	71,800	391,300	103
23	69,600	66,400	547	363,200	66,100	361,600	103
24	73,800	70,200	559	392,400	69,300	387,400	105
25	75,200	72,200	552	398,500	70,400	388,600	104
26	74,800	71,100	559	397,400	67,900	379,600	105
27	73,700	66,700	547	364,800	63,700	348,400	103
28	74,600	66,600	554	369,000	63,600	352,300	105
29	74,700	66,300	535	354,700	63,500	339,700	99
30	74,900	67,400	551	371,400	64,500	355,400	101
令和元	75,300	68,400	551	376,900	64,800	357,000	102
2	75,300	68,300	552	377,000	64,500	356,000	102
3 (見込み)	74,900	..	545	..	61,000	332,500	101

5 水稻の年次別推移（秋田）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	92,300	92,200	574	529,200	…	…	101
14	92,300	92,100	561	516,700	…	…	98
15	90,800	90,400	530	479,100	…	…	92
16	94,000	93,700	487	456,300	…	…	85
17	94,900	94,600	575	544,000	…	…	100
18	94,400	94,100	574	540,100	…	…	100
19	94,500	94,100	584	549,500	…	…	102
20	89,600	89,000	602	535,800	86,800	522,500	105
21	90,400	89,700	567	508,600	85,600	485,400	99
22	92,800	91,300	535	488,500	82,300	440,300	93
23	92,900	90,000	569	512,100	79,300	451,200	99
24	93,700	91,100	573	522,000	78,600	450,400	100
25	94,300	92,500	572	529,100	78,700	450,200	100
26	94,000	91,700	596	546,500	76,000	453,000	104
27	92,900	88,700	589	522,400	71,200	419,400	103
28	91,600	87,200	591	515,400	69,300	409,600	104
29	91,000	86,900	574	498,800	69,500	398,900	99
30	90,900	87,700	560	491,100	75,000	420,000	96
令和元	90,500	87,800	600	526,800	74,900	449,400	104
2	90,300	87,600	602	527,400	75,300	453,300	105
3 (見込み)	89,800	..	591	..	71,400	422,000	102

6 水稻の年次別推移（山形）

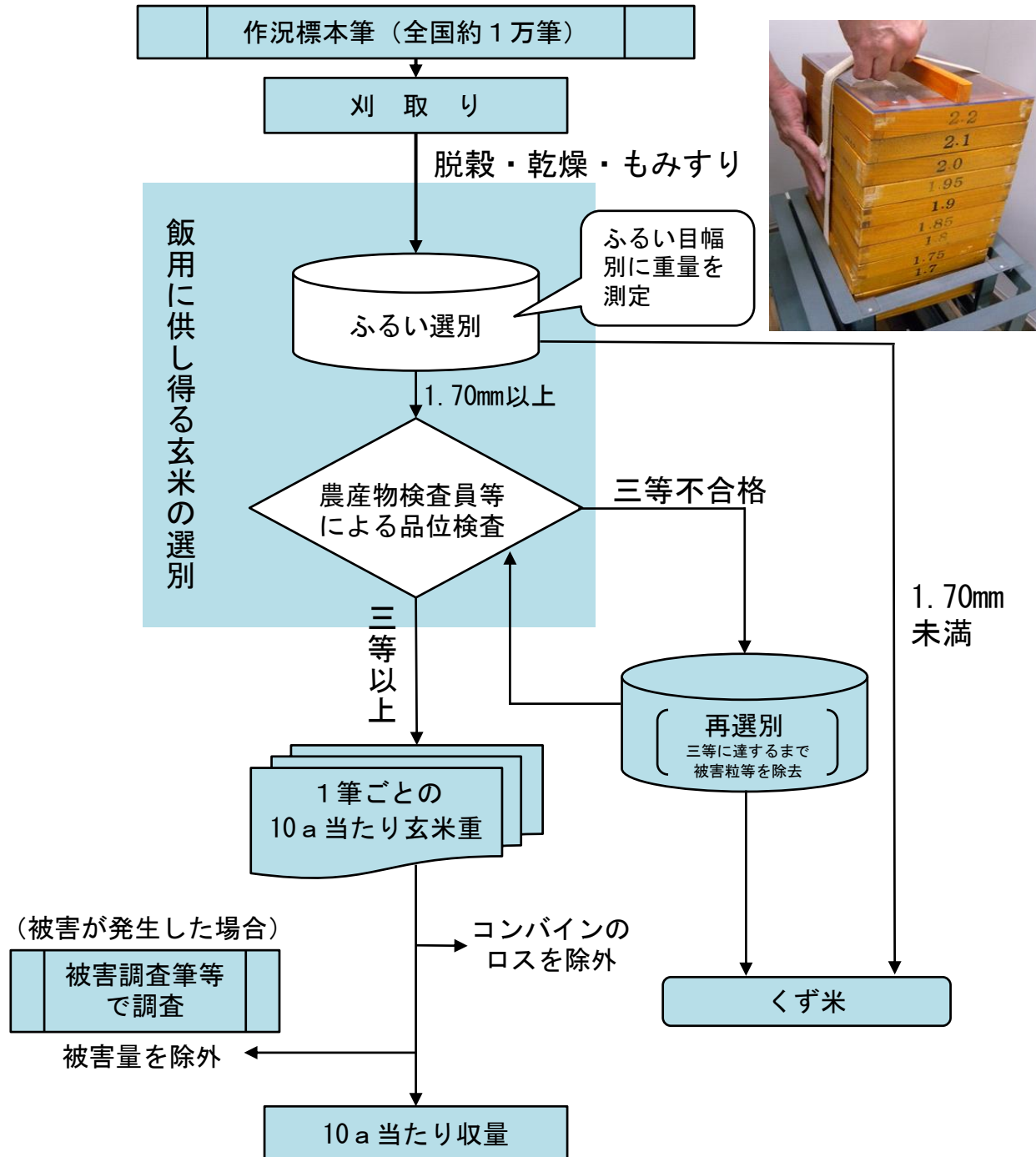
年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	71,200	70,800	601	425,500	…	…	102
14	70,800	70,500	600	423,000	…	…	101
15	69,500	69,100	547	378,000	…	…	92
16	71,000	70,700	561	396,600	…	…	95
17	71,900	71,700	599	429,500	…	…	101
18	71,800	71,500	586	419,000	…	…	99
19	70,300	69,800	601	419,500	…	…	101
20	68,300	67,600	617	417,100	65,500	404,100	104
21	68,600	67,600	594	401,500	65,500	389,100	100
22	69,700	68,200	596	406,500	65,300	389,200	100
23	69,600	66,700	588	392,200	63,600	374,000	99
24	69,900	66,800	604	403,500	63,000	380,500	102
25	70,600	68,300	608	415,300	63,500	386,100	102
26	70,700	67,900	623	423,000	61,100	380,700	105
27	69,900	65,300	614	400,900	57,700	354,300	103
28	69,700	65,000	608	395,200	56,800	345,300	103
29	69,300	64,500	598	385,700	56,400	337,300	100
30	69,100	64,500	580	374,100	56,400	327,100	96
令和元	68,900	64,500	627	404,400	56,900	356,800	105
2	68,800	64,700	622	402,400	56,500	351,400	104
3 (見込み)	68,500	..	628	..	54,900	344,800	104

7 水稻の年次別推移（福島）

年 産	作付面積 (青刈り面積 を含む。)		10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子 実 用 ha					
平成13年産	81,100	80,800	551	445,200	…	…	105
14	80,700	80,500	548	441,100	…	…	103
15	80,400	80,200	471	377,700	…	…	89
16	82,300	82,100	555	455,700	…	…	104
17	82,900	82,700	543	449,100	…	…	101
18	82,800	82,600	525	433,700	…	…	98
19	82,800	82,600	539	445,200	…	…	100
20	81,700	81,300	539	438,200	80,800	435,500	100
21	81,400	80,700	541	436,600	80,200	433,900	101
22	81,900	80,600	553	445,700	79,400	439,100	103
23	66,500	64,400	549	353,600	64,100	351,900	102
24	67,900	66,200	557	368,700	66,000	367,600	104
25	69,400	68,200	561	382,600	65,700	368,600	104
26	69,800	68,200	560	381,900	62,600	350,600	104
27	70,300	65,600	557	365,400	61,500	342,600	101
28	70,800	64,200	555	356,300	60,100	333,600	102
29	71,000	64,000	549	351,400	59,900	328,900	100
30	71,200	64,900	561	364,100	61,200	343,300	101
令和元	71,400	65,800	560	368,500	60,400	338,200	102
2	71,200	65,300	562	367,000	59,200	332,700	102
3 (見込み)	71,600	..	555	..	54,700	303,600	101

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

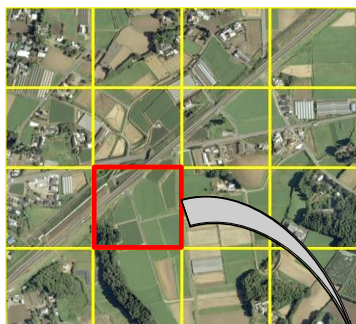


【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約1万筆）調査している。

全国の全ての土地
(母集団)



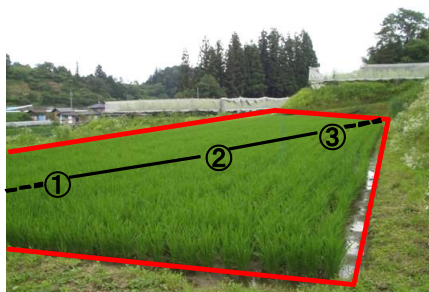
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で約1万筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び予想収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

本調査は、東北各県を対象に実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 予想収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

(3) 調査対象数

ア 作付面積調査

東北 標本単位区：8,333単位区

青森県 標本単位区：1,357単位区

岩手県 標本単位区：1,501単位区

宮城県 標本単位区：1,407単位区

秋田県 標本単位区：1,150単位区

山形県 標本単位区：1,512単位区

福島県 標本単位区：1,406単位区

イ 予想収穫量調査

東北 作況標本筆：1,933筆 作況基準筆：53筆

青森県 作況標本筆：330筆 作況基準筆：9筆

岩手県 作況標本筆：340筆 作況基準筆：10筆

宮城県 作況標本筆：330筆 作況基準筆：11筆

秋田県 作況標本筆：320筆 作況基準筆：9筆

山形県 作況標本筆：320筆 作況基準筆：8筆

福島県 作況標本筆：293筆 作況基準筆：6筆

3 調査事項

水稻の作付面積、10a当たり予想収量、予想収穫量（9月25日現在）、穂数・もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和3年7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：令和3年9月25日現在

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全ての土地を隙間なく区分した200m四方の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地について筆ポリゴン（衛星画像等を基に面積調査用の地理情報システムにより筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）ごとの形状に沿って作成した面をいう。）を作成するものをいう。）の集まりを母集団としている。

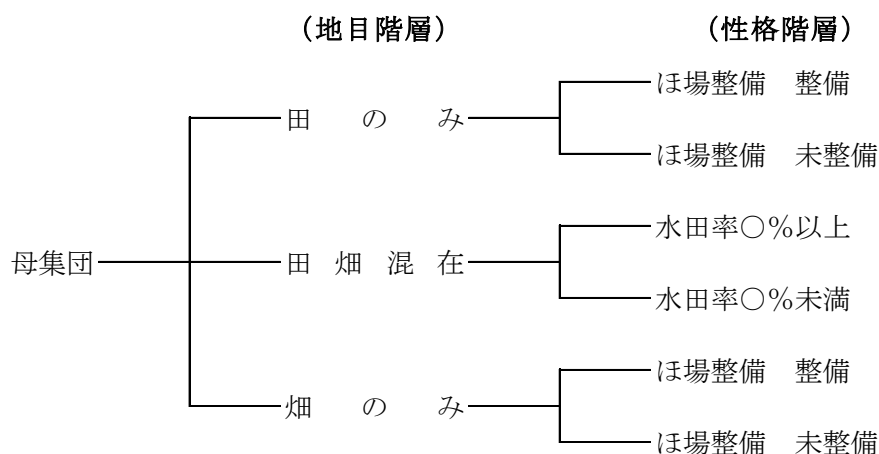
なお、筆ポリゴンには、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、それぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

階層分け模式図（例）



ウ 標本配分及び抽出

県別の田畑別耕地面積及び水稻作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稻が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに現況地目、耕地の境界及び作付けの状況を確認する。

オ 推定

水稻作付面積の推定においては、県別に面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況の水稻作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定し、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

推定面積 = $\frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$

なお、東北の値は、県別の値を合計して算出した。

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 予想収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 標本配分及び抽出

県別の調査対象数を階層別に水稲の作付面積に10 a 当たり収量の標準偏差を乗じた結果に比例して配分する。

階層別に配分された調査対象数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ 10 a 当たり玄米重の算定

(ア) 予想収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えていないもの)

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、1穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データを基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10 a 当たり玄米重を予測する。

(イ) 収穫量調査(調査期日において収穫期を迎えているもの)

各作況標本筆について、一定株数(1 m²分×3か所の株数)の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、10 a 当たり玄米重を決定する。

カ 10 a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10 a 当たり玄米重の平均を基に、県別の10 a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、県別の10 a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10 a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10 a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりのもみの数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1 m²当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東北は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

東北各県における令和2年産以降の作況指数の算出に用いるふるい目幅は以

下のとおりである。

〔 青森県：1.90mm、岩手県：1.90mm、宮城県：1.90mm
秋田県：1.90mm、山形県：1.90mm、福島県：1.85mm 〕

- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

7 その他

- (1) この資料のうち、作付面積の数値は、概数値である。
確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和4年2月予定）するとともに、その後刊行する「令和3年耕地及び作付面積統計」に掲載する。
なお、確定した詳細な数値を農林水産省ホームページに掲載した後の正誤情報は、農林水産省ホームページでお知らせする。
- (2) 本調査（9月25日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

(3) 東北農政局管内各県の各作柄表示地帯の包括範囲は、以下のとおりである。

県	作柄表示地帯	包 括 範 囲
青 森	青 森	青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町
	津 軽	弘前市、黒石市、五所川原市、つがる市、平川市、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤崎町、大鱒町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町
	南部・下北	八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村
岩 手	北上川上流	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町
	北上川下流	花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町
	東 部	宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村
	北 部	久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町
宮 城	南 部	白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町
	中 部	仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村
	北 部	登米市、栗原市、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町
	東 部	石巻市、気仙沼市、東松島市、女川町、南三陸町
秋 田	県 北	能代市、大館市、鹿角市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村、藤里町、三種町、八峰町
	県 中 央	秋田市、男鹿市、由利本荘市、潟上市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
	県 南	横手市、湯沢市、大仙市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村
山 形	村 山	山形市、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
	最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
	置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高島町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
	庄 内	鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町
福 島	中 通 り	福島市、郡山市、白河市、須賀川市、二本松市、田村市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町
	浜 通 り	いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村
	会 津	会津若松市、喜多方市、下郷町、檜枝岐村、只見町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町

【ホームページ掲載案内】

- 東北の農林水産統計調査結果は、東北農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/> 】



- 全国の農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】



全国の結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y3 】



【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

東北農政局 統計部 生産流通消費統計課

電話：（代表）022-263-1111 内線4727

（直通）022-745-9379

F A X： 022-263-6512

◎農林水産統計全般について

東北農政局 統計部 統計企画課

電話：（代表）022-263-1111 内線4713

（直通）022-745-9378

F A X： 022-263-6512



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>